

平成27年度第2回津市教科用図書調査研究委員会 議事概要

1 日 時 平成27年7月24日(金) 午前9時00分から午前12時30分

2 場 所 津リージョンプラザ2階 第1会議室

3 出席者

(1) 協議会委員

津市教育長	石川 博之 (会長)
津市教育委員会委員長	坪井 守
東橋内中学校長	篠田 昌弘 (副会長)
保護者代表	野田 昌志
保護者代表	山本 美沙子

(2) 事務局員

津市教育委員会事務局	教育次長 倉田 幸則
教育研究支援課長	土性 孝充
教育研究支援課主幹	川原田 元
教育研究支援課副主幹	森 雅也

4 事項

(1) 開会・会長挨拶

(2) 第1回津市教科用図書調査研究委員会の決定事項の確認について

(3) 教科書展示会の報告

(4) 議事

ア 教科別調査委員会の調査結果の報告及び平成28年度使用中学校用教科書調査研究結果について

(ア) 国語

(イ) 書写

(ウ) 理科

(エ) 音楽 (一般、器楽合奏)

(5) その他連絡事項

(6) 閉会

5 議事

(1) 事項(1)について

開会 挨拶 石川会長より

平成27年度の津市教科用図書調査研究委員会は、平成28年度から中学校で使用する教科書の調査・研究を実施し、研究結果を取りまとめて教育委

員会に報告する役割を担っています。本日と27日の2日間で、各種目の調査員の代表である部長からの報告を受けて研究・協議を行い、教育委員会に推薦する教科書を決定します。それぞれの種目で十分な時間はとってありますが、スムーズな議事運営に御協力をお願いします。

(2) 事項(2)について

「第1回津市教科用図書調査研究委員会の議事要旨」が承認された

(3) 事項(3)について

事務局から報告があった。

来会者の合計は、230名で、その内訳は、教育関係者183名、保護者7名、その他40名であった。

(4) 事項(4)議事のA

教科別調査委員会の調査結果及び推薦案の報告について

① 国語の調査員会部長から、「平成28年度使用中学校用教科用図書調査報告書」に沿って、調査結果の報告があった。

質疑応答及び協議は以下のとおりであった。

部長：調査員としましては、東書の教科書を推薦したいと思います。理由としては、次の4つがあります。

1つは、発達段階や学校等での生活に応じた該当学年にふさわしい教材、あるいは、他教科や総合的な学習との関連を考慮した教材が吟味されていることです。2つは、「基礎編」や「資料編」は、巻末にまとめて配置されているので、国語科で学んだことを振り返りたいときに有効であると同時に、他教科や総合的な学習の時間にも活用することができることです。3つは、「読むこと」、「話すこと聞くこと」、「書くこと」、「伝統的な言語文化と国語の特質」の4つの学習内容、すべてを関連させて総合的に学びながら相乗効果が得られるように、配置が工夫されていることです。そして、4つは字です。教科書全体で、書き文字に近づけた「特別な明朝体」を用いているので、読みやすいと同時に、生徒が漢字の書き方や画数を間違えることが少なくなるということです。

議長：調査員からの報告についてのご質問やそれぞれの教科書に対するご意見がありましたらお伺いしたいと思います。

委員：東書は、活用力を育むという点で優れていると思うがどうか。また、震災の問題など今日的な問題の扱いについても検討したか教えてほしい。

部長：どの発行者も、活用力を育むような内容にはなっていますが、東書の場合は、4つの観点を総合的に学びながら、相乗効果をあげるようにしています。今日的な話題については、各社それぞれが工夫した教材を取り入れています。東書は、分かりやすく、生徒に興味を持たせるような教材になっていると思います。

委員：国語は小学校と比較して、中学校1年生ですごくレベルが上がると思うのですが、小中連携の視点でどうですか。

部長：以前より、小中接続がスムーズに行くようには配慮されていると思います。活字も1年生は大きくなっていて、生徒が感じるギャップは少なくなると考えています。

議長：光村や三省堂は、説明文と文学作品で学習の取り組み方の違いが上手く整理されています。例えば、説明文の学習の仕方について東書はどうですか。

部長：東書は、「言葉の力」というコーナーで、説明文の学習に大事な点を一つ一つの教材文ごとに示してあり、この教材で、どんな力をつけるのかということが明確になっています。

委員：生徒の立場で見ると、書き方や色使い、効果的なイラストの使用という点で、三省堂の方が取り組みやすいのではないかと。

部長：各発行者で、それぞれの教材にあったイラストが使われており、色使いも含めて、意見が分かれました。

委員：三省堂は、読み物は1段組で、説明文のところは2段書きになっています。一方、東書の方は、2段組になっているものが多いですが、その点はどうですか。

部長：読んでいて次の行に移るときは、2段組の方が見やすいとは思いますが、それぞれの単元に応じて工夫してあれば良いと考えています。

【部長退室】

議長：それでは、どれを候補としていくかご意見をください。

委員：東書の場合は、少し内容の程度が高いように感じます。高いレベルを求めるのは良いことではありますが、中学校では、どの生徒も学習についていけるという視点も大切ではないでしょうか。

委員：自分の子どもの授業参観を振り返ると、ちょっと背伸びしたような題材や課題でも、実生活に基づく、素敵な教材を工夫して指導してもらった場合、子どもはきちんと取り組んでいました。

委員：総合的に判断すると、東書と三省堂のどちらかだと思います。

委員：三省堂はシンプルで見やすいが、中学校から高校に向けて、あるいは、

社会に向けて、総合的な力を育てるという点では、東書が良いと思います。
委員（議長）：東書の「言葉の力」は、コラム的なものですが、まとめ方は良くできています。

委員：子どもたちが見やすいということも大切ですが、子どもたちにどのような力を付けていくのかという視点も大切ではないかと思います。卒業する時にどのような力をどれだけ付けさせるかを考えた時には、東書の方が良いのではと思います。

議長：今までの議論を踏まえると、国語につきましては、東書を本委員会の候補とさせていただきたいと思いますが、いかがでしょうか。

委員全員：異議なし

議長：国語につきましては、東書を候補とします。

② 書写の調査員会部長から、「平成28年度使用中学校用教科用図書調査報告書」に沿って、調査結果の報告があった。

質疑応答及び協議は以下のとおりであった。

部長：調査員としては、「光村」を推薦したいと思います。その理由は、6点あります。1点目は、中学校3年間の見とおしと目標、学習の流れが示されていることです。目標をもとに「学習の窓」を活用して学習活動に取り組みせ、「学習をふり返る」によって、書写への理解と技能の向上を図っております。2点目は、学習内容が見開き2ページにまとめられ、目標の把握、基礎基本の理解、確認・活用、ふり返りといった学習の流れがわかりやすく、生徒自らが見通しを持って自主的に学習を進めることができるように工夫されていることです。3点目は、小学校書写からのスムーズな接続ができるように、冒頭に「基礎編」が設けられておりまして、書くときの姿勢、これも真横と正面から筆記用具の持ち方、「点画の種類と筆使い」や「字形の整え方」などが詳しく示されていることです。4点目は、毛筆の学習には、筆使いなどの注意点が朱書で添えられ、始筆と終筆、筆の運び方が図や写真等ではっきり示され、朱墨と薄墨の2色刷りとなって、大変分かりやすくなっていることです。5点目は、毛筆の手本は行書と楷書が並べられておりまして、行書と楷書の違いが理解しやすいように工夫されていることです。6点目は、各学年ともに毛筆の直後に硬筆が配置され、毛筆と硬筆の関連が図られていることです。

議長：ただ今の説明で、調査員の皆さんに質問がありましたらどうぞ。

委員：光村は、文章の構成や手紙の書き方などが資料編に盛り込んでありますが、実際の授業では、どのように使っているのですか。

部長：使い方については、年間の授業時数が20時間程度ということですので、指導者が必要性に応じて使うということになると思います。資料編なので、学年関係なしに、容易に活用することができます。

委員：書写の学年毎の学習目標について端的に言い表すとどうなりますか。

部長：1年生は、楷書で書く、そして行書の基礎的な書き方を理解して書くこと、2年生は、行書に仮名を入れて書き方を理解して、読みやすく、はやく書くこと。3年生では、効果的に書くということになっています。

【部長退室】

議長：それでは、どれを候補としていくかご意見をください。

委員：光村は、重要事項が分かりやすいし、資料としてもよくまとめられている教科書じゃないかなと思います。

委員：生活に役立てるという意味で、手紙を書くことの指導は、非常に大事だと思います。また、のし袋の書き方も記載されていて良いですね。

委員：結論としては光村でよいと思います。光村は、重点が巻末にあるので、学年を通じて工夫しながら指導に活用できる等、教材の配置が効果的になされていると思います。

委員：光村の68ページにあるノートの書き方がとても大事ですね。自分でノートをまとめることができないと社会人になって困ることを考えると、このページも良いと思います。

議長：今までの議論を踏まえますと、書写につきましては、光村を本委員会の候補とさせていただきたいと思いますが、いかがでしょうか。

委員全員：異議なし

議長：書写につきましては、光村を候補とします。

③ 理科の調査員会部長から、「平成28年度使用中学校用教科用図書調査報告書」に沿って、調査結果の報告があった。

質疑応答及び協議は以下のとおりであった。

部長：調査員としては、啓林館の「未来にひろがるサイエンス」が最も適切であると判断しました。その根拠の1点目は、基礎・基本を丁寧に記述し、それらの知識・技能を活用・応用して、思考・表現する力を養う内容となっているということ。2点目は、実験・観察において、目的意識を持って主体的に活動できるよう工夫されていることです。実験方法も写真と図を組み合わせでわかりやすく説明しています。3点目は、各単元で小学校での既習内容を振り返ることができたり、学習目標が明確に示されたりするなど、生徒が見通しをもって学習に取り組むことができるようになってい

ることです。4点目は、「環境編」を配置し、既習内容を活用して持続可能な社会を作るための科学的な見方や考え方を総合的に養えるようになっていることです。5点目は、「ぶれいく time」「広がる世界」「はたらく人に聞いてみよう」など身近な話題と科学の関連性を紹介するコラムが豊富であるとともに、「部活ラボ」というコーナーを加えて、理科の意義や有用性が実感できるようになっていることです。6点目は、化学反応の鮮明な写真、原子モデルや電気の回路図で分かりやすい図などが効果的に配置されていることです。7点目は、「サイエンス・トラベラー」などで地域資料を豊富に取り上げており、他社に比べ三重県に関する資料や写真も多いため、生徒にとっては親しみやすい内容となっていることです。さらに、南海トラフも取り上げられています。8点目は、分冊形式であり、別冊「マイノート」を活用して、これまで以上に、基礎的・基本的な知識や技能の定着、科学的な思考力の育成を図ることが期待されるということです。

議長：ありがとうございます。調査員の方に質問がありましたらどうぞ。

委員：別冊のマイノートを、学校ではどのように使うのでしょうか。

部長：問題演習や学習の振り返りに使用することが考えられます。もう一つは、実験とリンクした活用ができます。

委員：各章にまとめがあるのですが、学習のまとめ方について、各社比較した場合のご見解を聞かせていただけませんか。

部長：まとめは、量が多ければ良いというわけではありません。すべてのことを網羅しようと思ったら量は多くなりますから、重要事項を簡潔に記載するのが学習のまとめだと思います。その点、啓林館のまとめは、バランスが取れていると思います。

委員：啓林館の方が見やすくて良いと思うのですが、他の発行者で競ったものはありましたか。

部長：20項目の観点で調査したところ、啓林館が高評価でした。次が東書でした。東書については、話し合うとか考え合うとかといった言語活動の部分での評価は高かったのですが、図の説明に工夫が欲しいという調査結果になりました。

【部長退室】

議長：それではどれを候補としていくかご意見をください。

委員：マイノートを活用することで、家庭学習の充実も図ることができるという点は良いと思います。

委員：三重県の内容が写真で取り上げられている点も、学習内容が身近なものに感じられて良いと思います。

委員：啓林館は、星座のところの説明も、細かすぎず適切であるかなと思います。また、学習のまとめの仕方も、啓林館が、一番分かりやすく使いやすいと思います。学校図書のもとも良いのですが相対的に判断して啓林館かなと思います。

議長：今までの議論を踏まえますと、理科につきましては、啓林館を本委員会の候補とさせていただきたいと思いますが、いかがでしょうか。

委員全員：異議なし

議長：理科につきましては、啓林館を候補とします。

④ 音楽の調査員会部長から、「平成28年度使用中学校用教科用図書調査報告書」に沿って、調査結果の報告があった。

質疑応答及び協議は以下のとおりであった。

部長：鑑賞教材を中心に、教員が授業をする側として使いやすいか、また、授業を受ける生徒側が、見てわかりやすいものになっているのかという視点で両発行者を比較しました。鑑賞教材は、内容的には、ほとんど変わらないのですが、全体的に、教芸の方が鑑賞教材の作曲者について詳しく載っています。例えば、ベートーベンの耳が不自由であったことは、教出には触れられておりません。曲全体については、教出の方が細かく丁寧に書いてありますが、細かく書かれすぎていて、授業ではそこまで指導する時間がないと思われます。また、授業で写真を活用して楽器の説明をすることがありますが、写真については教芸の方が使いやすいと思います。歌唱教材については、どちらの教科書もたくさん良い曲を載せてありますが、歌う生徒の心情部分に迫るといふ点では、教芸の方が優れていると思います。

日本の伝統芸能についても、授業での扱う時間数は限られていますので、絶対に扱うであろうものを中心に比較すると、「日本古来の」という視点できめ細やかに記載されている教芸の方が優れていると思います。

議長：調査員にご質問があれば、どうぞ。

委員：世界の民族音楽という点で、何か違いはありましたでしょうか。

部長：民族音楽の多くが打楽器です。特に、中南米、アフリカの民族音楽を扱う場合、打楽器は外せないのですが、教芸の方には打楽器が多く記載されています。

委員：楽典の部分について、両社の違いがあれば教えてください。

部長：楽典については、教芸は、「確認しよう」のコーナーを各学年に設けて、生徒が苦手とする楽典の学習を段階的に取り組んでいけるように工夫されています。

委員：両発行者で、「楽典」の分量がずいぶん違いますが、子どもたちが資料として使う場合、適量はどちらだと思いますか？

部長：実際には、教芸程度の分量が必要だと思います。

【部長退室】

議長：それではどれを候補としていくかご意見をください。

委員：音楽一般は、教芸の方が良いです。

委員：クラシックの鑑賞でも、教芸の方が捉えているところが良いと思います。

また、楽典にしても教芸の内容くらいは、必要かと思います。教出の内容は、少ないように感じます。

委員：指揮についても、指揮者の体の動かし方の意味などが分かりやすく書かれているのが、教芸です。

委員：私も、そう思います。

委員：一般と器楽合奏は同じ発行者で揃えた方が良いと思います。

委員：突き詰めて学習したいのであれば、音楽学校などに進学するということになりますが、そうでない生徒も分量的に教芸の内容が必要だと思います。

議長：今までの議論を踏まえますと、音楽につきましては、教芸を本委員会の候補とさせていただきたいと思いますが、いかがでしょうか。

委員全員：異議なし

議長：音楽につきましては、教芸を候補とします。

(5) 事項(5)について

その他連絡事項

事務局から、第3回調査研究委員会を7月27日（月）に開催すること及び調査研究委員会の結果を取りまとめて、7月31日（金）及び8月5日（水）に開催する教育委員会に報告することなどが委員に伝えられた。

(6) 事項(6)について

閉会 事務局から閉会挨拶